

一 次の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(4)の文中の傍線を付けた漢字の読み方を書きなさい。また(5)～(8)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。ただし、漢字は楷書で、大きくていねいに書くこと。

- (1) 朝は気分が爽やかだ。 (2) 名所を訪ねる。  
 (3) 街灯の光が輝いている。 (4) 峡谷に架かる橋。  
 (5) 不安を取りノボク。 (6) 茶わんに飯をふる。  
 (7) ソンザイ感のある役者。 (8) ボウエキを自由化する。

2 次の「種」という漢字を行書で書いたものである。楷書と比較したとき、○で囲まれた①と②の部分に表れている行書の特徴の組み合わせとして最も適しているものを、次のア～エから一つ選び、記号を○で囲みなさい。



- ア ① 点画の連続 ② 筆順の変化  
 イ ① 点画の省略 ② 点画の連続  
 ウ ① 筆順の変化 ② 点画の省略  
 エ ① 点画の省略 ② 筆順の変化

3 次の文中の傍線を付けたことばが「多くの人が共通の目的をもって一つの場所に集まって」という意味になるように、□にあてはまる漢字二文字を、あとのア～エから一つ選び、記号を○で囲みなさい。

各校の代表選手が□に会して、競技が行われた。

- ア 同 イ 動 ウ 堂 エ 道

形はできない。芸術家が材料の中に身をもって働きかけるとき、材料そのものが応答してくる。この能動と受動の相互作用から、創造的形は生まれてくる。形は、素材との出会いから生み出されてくるものなのである。

制作の現場は、素材との対話である。確かに、形も素材に働きかけ、素材を変貌させるが、同時に、素材の方も形に抵抗し、形を変えていく。芸術家の素材への働きかけと素材からの応答が芸術家の経験となり、その経験から新しいものが生み出される。しかし、素材との出会いの中から何が生み出されるかは必ずしも、芸術家自身にまもって分かっているわけではなく、出来上がるまでは分からない部分がある。むしろ、素材の中から創造的形を引き出していくことが、芸術家の役割なのである。

(小林道憲『芸術家事始め』による)

1 次のうち、作品と熟語の構成が同じものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 価値 イ 異国 ウ 起伏 エ 登山

2 陶芸は、その最も適切な例であろうとあるが、次のうち、陶芸について本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 陶芸の制作において、どのような作品が出来上がるかは、素材や条件よりも、陶芸家自身の構想力と力量に支配される部分が多い。  
 イ 素晴らしい陶芸作品は、素材となる粘土、制作時や制作場所の気候など、すべてが陶芸家の構想通りにそろったときに生み出されるものである。  
 ウ 陶芸は、自然と人が協働して創造される芸術であるという意味では、人為では制御しきれない面や偶然に任せねばならない面がある。  
 エ 陶芸は、大自然の創造力に身を任せる芸術であり、自然の中にみずから行為を参入させるのではなく、自然に随順になることが必要である。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

画家にしても、彫刻家にしても、芸術家は、対象をよく見て、自分の感性でそれを構成し、作品を作っていく。しかし、必ずしも、自分の構想通りに作品を作り上げられるわけではない。

②陶芸は、その最も適切な例であろう。もともと、陶芸家は、単に自分だけの構想力と力量だけで作品を作ろうとは思っていない。どのような作品が出来上がるかは、かなりの程度、素材や条件に支配される部分が多い。粘土の組成や性質、火の温度の加減、湿度など、その時、その場の気候、風土など、自然に任せねばならない部分が多いのである。陶芸は、ある意味で、大自然の創造力に身を任せる芸術である。素晴らしい陶芸作品は、土の声を聞き、火に従い、自然に随順になったとき生み出される。陶芸は、地水火風、天地人すべてが協働して創造されてくる芸術なのである。その意味では、陶芸の場合、人為では制御しきれない面、偶然に任せねばならない面がある。どのような味わい深い色が出てくるかは、炎や窯の偶然を当てにしなければならぬのである。むしろ、そういう偶然の効果や成果を喜ぶのが陶芸でもある。陶芸は、自然の中にみずからの行為を参入させて、自然の方から作品を作り出す芸術だとも言える。

通常、芸術作品は、経験的な素材に主観の想像力が加えられることによって成立すると考えられている。しかし、芸術制作に働く想像力は無制限ではない。単なる想像力だけなら、夢想にすぎない。また、芸術家は、自分の頭だけで考えたイメージや計画を、そのまま腕ずくで素材に強制するわけでもない。制作の現場では、芸術家は常に素材から制限されている。しかも、素材に制限されてこそ、造形芸術は成り立つ。素材は、芸術の形成作用に対して抵抗もするが、形作りを助けてくれる。素材は素材ですでに形作られており、石にしても、土にしても、木片にしても、布にしても、ゴツゴツしていたり、粒だっていたり、ざらついていたたり、節が多かったり、それ自身の性質をもっている。だから、画家にしても、彫刻家にしても、素晴らしい作品を作るには、材料の個性に精通していなければならない。

芸術の制作や表現は素材なくしてはありえない。素材に制約されなければ、素晴らしい作品を作るには、材料の個性に精通していなければならないとあるが、筆者がこのように述べるのは、「素材」がどのようなものであるからか。その内容についてまとめた次の文の a に入る内容を、本文中のことばを使って十五字以上、二十五字以内で書きなさい。また、b に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から十二字で抜き出し、初めの五字を書きなさい。

素材は、そのもので a もであり、芸術の形成作用に対して抵抗もするが b ものであるから。

4 芸術家の役割について、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。a、b に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、それぞれ本文中から抜き出さない。ただし、a は十六字、b は十八字で抜き出し、それぞれ初めの五字を書きなさい。

a を通じて、b ことが芸術家の役割である。

## 三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

児にかくして坊主餅を焼き、二つに分け、両の手に持ち食せんとするところへ、人の足音するを聞き、畳のへりを上げ、あわてて半分をかくすに、はや児見付けたり。坊主、赤面しながら、「今程の有様をおもしろく歌に詠みたらば、**振る舞はん**」といふに、

山寺の畳のへりは雲なれやかたわれ月の入るをかくして——**ア**

(注) 畳 = こは、わらなどで編んだ薄い敷物のこと。

鈴木棠三 『醒睡笑(下)』

- ① あわててとあるが、坊主はどのようなことに対してあわてたのか。次のうち、最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。
- ア 児にかくれて餅を焼いて食べようとした時に人の足音が聞こえてきたこと。  
 イ 自分がかくれて餅を焼いていたことを児が他の人に言いふらしたこと。  
 ウ 自分が後で食べようとしておいた餅を児が食べてしまっていたこと。  
 エ みんなで食べるはずの餅をかくれて食べているのを児に見られたこと。

- ② 振る舞はんを現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

- 3 本文中の**ア**で示した和歌について説明した次の文の **a**、**b**、**c** に入れるのに最も適していることを、それぞれ本文中から抜き出さなさい。

**a** が詠んだものであり、二つに分けた  
**b** のようだとた  
**c** のようだとた  
 えて詠んだものである。

③、作品の流れに身をゆだねて、変化や多彩さばかりに心を奪われていては、貴重なものを見失ってしまうことになる。個々の段、時には一文・一語に立ち止まってその表現世界に沈潜することも必要であろう。『徒然草』は、初歩の古典教育の素材に好んで採り上げられることから明らかなように、実に明快な作品であるが、そのどこかにこだわると一転して難解な印象を与え始める。また、ふれられている話題についての知識や思索が深まってから読み直してみると、なげなく書き流されたように見えていた文の行間にひそんでいた複雑で重いものが徐々に見えるようになる。

そのことは、兼好が、さまざまものを念頭に置きつつ、けっして多くない言葉数によって自説を展開していたことの現れであろう。とすると、われわれは、兼好がいわず語らずのうちに継受したもの、反発・批判していたものなどを知らなければ、ついに彼の真意になかなか近づけないにちがいない。残念ながら、直接に兼好にたずねることのできないわれわれとしては、彼の教養・体験の質と量、発想や論理の型などから『徒然草』の内部をのぞくよりほかないわけである。

(三木紀人『徒然草』による)

- ① とりとめとあるが、次のうち、このことばの本文中での意味として最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 根拠    イ まとまり    ウ 面白み    エ 変化

## 四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

『徒然草』は不思議な書物である。世捨て人兼好の作ということほだれでも知っているが、いつ、いかなる事情によって書かれたのかは、きりしない。他の評論的な作品の成立事情から類推して、貴人に献呈されたものかとする説もあるが、それにしても、よかれあしかれ自由でとりとめがなさすぎる。やはり、序段に示されているように、これは「つれづれ」の境地から生まれたもので、「心にうつりゆくよしなし」ことを、そこはかとなく書きつづけた作品としておく方が無難であろう。

そのような作品は、いうまでもなく、「随筆」と呼ばれる。しかし、この用語も概念も兼好の時代の日本人の知識にはない。随筆的な部分を持つ作品は少なくなかったが、随筆というよりほかか呼び方のない作品としては、かろうじて、例の『枕草子』があるだけであった。しかし、『枕草子』は、後世の知名度の高さからすると信じがたいことだが、あまりもてはやされることなく、一部少数の人々に珍重されるだけだったらしい。兼好は、この『枕草子』に触発され、それを意識しつつ本書を書きはじめたのであるが、彼自身も、「筆を執れば物書かれ」と書き、「心は必ず事に触れて来る」(ともに第一五七段)と書いた人である。筆を手にするとはほとんど自動的に文章が生まれ、そのことによって心がある輪郭をとりはじめる。随筆というものが生まれるときの、こうした衝動と行為について、十分に自覚的であったことはたしかであろう。その自覚から兼好は随筆という形でしか現せない真実がこの世にあるのだということに気づいたとおぼしく、その結果『徒然草』が書かれることになったのであろう。

この作品は、二百四十四の章段に分けて読むならわしになっている。各段は、内容的にも、執筆時においても非連続の部分もあるようだが、前後はおおむね連想の糸によって結ばれているらしい。読者は、はじめから読みすすむ場合、作者の心の動きにみちびかれて、各方面の物事をめぐって知的刺激を与えられるはずである。文章は、硬い説得調、のんびりした世間話風の語り口、詠嘆的な美文、ふとした時のひとりごとめいた寸言などさまざまで、多彩な内容に応じて、実に変化に富んでいる。その変化を味わうのが、『徒然草』が与えてくれるえがたい楽しみである。

② 兼好は、この『枕草子』に触発され、それを意識しつつ本書を書きはじめたこととあるが、『徒然草』が書かれることとなった過程について、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。**ア**に入る内容を、本文中のことばを使って**四十字以上、五十文字以内**で書きなさい。

筆を手にするとはほとんど自動的に文章が生まれ、それによって心がある輪郭をとりはじめるというような、随筆が生まれるときの **ア** により、『徒然草』が書かれることになった。

- 3 次のうち、本文中の **ア** に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア ただし    イ あるいは    ウ つまり    エ なぜなら

4 次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 『徒然草』は、二百四十四の章段に分けて読むならわしになっており、各段は内容においても執筆時においてもすべてが連続していることから、各段の前後がおおむね連想の糸によって結ばれているように感じられる。  
 イ 多彩な内容に応じた文章の変化を味わうことが『徒然草』の与えてくれるえがたい楽しみであり、その変化を味わうためには、個々の段や一文・一語に立ち止まって、その表現世界に沈潜することが大切である。  
 ウ 『徒然草』は、明快な作品であるが、そのどこかにこだわると一転して難解な印象を受けたり、書かれている話題に関する知識や思索が深まってから読むと文の行間にひそむ複雑で重いものが見えたりするようになる。  
 エ 兼好が、さまざまものを念頭に置きながらも、けっして多くない言葉数で自説を展開できたのはなぜかを知るためには、兼好がいわず語らずのうちに継受したものを、反発・批判していたものなどを知る必要がある。

二										
4		3				2	1			
b	a	b	a				ア	ア		
						エ	イ	イ		
						ウ	ウ	ウ		
						エ	エ	エ		
			25 ものであり、							
			15							

一									
3	2	1							
ア	ア	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
						峡	街	訪	爽
イ	イ					ノ			
		ボウ	ソン	モ					
ウ	ウ			る	く	谷	灯	ねる	やか
		エキ	ザイ						
エ	エ								

/14	/2	/2	/2	/4	/2	/2	採点者記入欄

/12	/2	/2	/1	/1	/1	/1	/1	/1	/1	/1	採点者記入欄

四										
4	3	2						1		
ア	ア	50						ア		
イ	イ	ことにより、						イ		
ウ	ウ							ウ		
エ	エ							エ		
		40								

三				
3			2	1
c	b	a		ア
				イ
				ウ
				エ

/12	/2	/2	/6	/2	採点者記入欄

/7	/2	/2	/1	/2	採点者記入欄